

## 健診データを用いた肥満指標と腎機能の推移についての縦断的検討

肥満は高血圧、糖尿病、脂質異常症のリスクのみならず、慢性腎臓病(CKD)の危険因子として考えられている。肥満の診断はBMIを指標として行われるが、BMIでは内臓脂肪蓄積を十分評価することができない。これまでBMIとCKD発症についての報告は多数あるが、内臓脂肪面積とCKD発症について注目した報告はわずかしかない。

メタボリックシンドロームは腹囲測定による内臓脂肪蓄積を基盤として高血圧、高血糖、脂質異常のリスクが2つ以上重なった病態である。腹囲は内臓脂肪面積の簡易マーカーとして用いられているが、実際は腹囲と内臓脂肪面積の乖離もみられ、内臓脂肪面積の実測が望ましいとされる。ゴールドスタンダードはCTによる測定であるが、放射線被ばくがないデュアルインピーダンス法による内臓脂肪測定装置が医療機器として認可されている。

今回、デュアルインピーダンス法による内臓脂肪面積測定結果と健診データを組み合わせて、肥満指標(内臓脂肪面積、皮下脂肪面積、腹囲、BMI)とCKD発症、蛋白尿出現との関連を縦断的に検討することを目的とした。

解析は各肥満指標ごとに群分けを行い、対象期間中のCKD発症と蛋白尿の出現をアウトカムとしてポアソン回帰分析を行った。また肥満指標ごとの経時的な腎機能低下について、一般化線形混合モデルを用いて評価した結果を本抄読会で報告する。

### 【参考文献】

- Madero M et al. Comparison between different measures of body fat with kidney function decline and incident CKD. *Clin J Am Soc Nephrol.* 2017;12:893-903.
- Garofalo C et al. A systematic review and meta-analysis suggests obesity predicts onset of chronic kidney disease in the general population. *Kidney Int.* 2017;91:1224-35.
- Thomas G et al. Metabolic syndrome and kidney disease: a systematic review and meta-analysis. *Clin J Am Soc Nephrol.* 2011;6:2364-73.